

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問看護におけるカテーテル交換処置の実施状況と地域特性との関連
演者名	平野央 1), 吉江悟 1), 木村琢磨 2), 野口麻衣子 1), 川越正平 3), 平原佐斗司 4)
所属	1) 東京大学在宅医療学拠点, 2) 北里大学総合診療医学, 3) あおぞら診療所, 4) 梶原診療所在宅サポートセンター

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

各地域の在宅医療体制整備のあり方は全国一律ではなく、資源の多寡等によって多様な展開が予想される。本研究は、地域特性が訪問看護師の医療処置実施状況にどのように影響するか検討することを目的とした。

方法

平成 25 年 8～9 月、東京近郊（東京・神奈川・埼玉・千葉）と被災により医療資源の減衰が著しい東北太平洋岸（岩手・宮城）の計 6 都県の訪問看護ステーション（介護サービス情報公表システム上の有効 1,764 ヶ所）を対象に郵送質問紙調査を実施した。胃瘻、経鼻胃管、気管カニューレ、尿道カテーテル（男性／女性）という 4 種類のカテーテル交換処置の実施有無（尿道カテーテルについては主に実施する職種）と、地域特性に関する 5 変数（人口 10 万人対診療所数／訪問看護ステーション数／病床数、人口密度、65 歳以上人口割合）との関連をクロス集計、 χ^2 検定により検討した。東京大学倫理委員会の承認を得て実施した。

結果

有効回答数（率）は、564（32.0%）であった。経鼻胃管の交換は、診療所数、訪問看護ステーション数の少ない地域において実施割合がより高い関連を示した。また、男性患者の尿道カテーテル交換は、診療所数、人口密度、65 歳以上人口割合が少ない／低い地域において看護師による実施割合が高かった。

考察

4 種類の処置のうち、経鼻胃管と男性患者の尿道カテーテル交換については、資源が少ない地域において、訪問看護師はより高い割合で当該処置を実施していた。木村ほか（木村琢磨ほか、訪問診療におけるカテーテル交換処置の実施状況と地域特性との関連、第 17 回日本在宅医学会大会、盛岡、抄録執筆時演題登録申請中）による医師向け調査の結果と比較すると、地域特性と処置実施割合との間には、処置の種類によって異なる関連が認められた。処置の種類によって、資源の多寡等により看護師への業務分担が進みやすいもの、進みにくいものが存在する可能性が示唆される。